平安朝第一の貴族の邸宅
冷泉家を見学して

平安朝の貴族と言えば藤原氏です。その筆頭ともいえる藤原道長から四代目が和歌の神様と言われた藤原俊成（しゅんぜい。）勅撰和歌集，千載集の選者）とその子藤原定家（ていか。勅撰和歌集、新古今集、新勅撰集の選者）です。その孫が為相（ためすけ）でその為相が冷泉家の始祖となっています。当時の朝廷はほとんど藤原氏でしたから、それぞれ別家をたて二条家、京極家、冷泉家などとなりました。正式の姓は「藤原」だそうです。為相から数えて25代目が現在のご当主、為人様です。　冷泉家は京都烏丸今出川の同志社大学の南側に隣接しています。そして京都御所のすぐ北側でもあります。機会を得て、その邸宅を見学させていただきました。現在の建物は天明の大火（１７９０年）の後、建てられたもので、現存する最古の公家住宅ということです。　まず表門、正面は勅使が通られるときだけ開き、普通は左側の通用口が使われています。屋根には一対の亀の瓦が配置され、阿吽のかたちをしています。亀はめでたい象徴とされまた水を吐いて、火避けにもされているということでした。そして内玄関、式台、大玄関、使者の間があり、部屋は「ハレ」（公的のもの）「ケ」（私的なもの）に分かれていて、「ハレ」の間には畳の縁に紋がある「紋縁畳」が敷かれていて「ケ」にはありません。使者の間に続く中の間、上の間は「ハレ」の間で歌会などが開かれる座敷となっています。各座敷は、おおむね十畳くらいで、十以上あります。境の襖を外すと大広間ができるようになっています。冷泉家は平安時代から第一の歌道の家柄です。冷泉家で最も大切なのは、その平安時代から伝わっている膨大な古文書です。屋敷内に二つの土蔵があります。一つは「御文庫」で室町時代以前の、先祖伝来の典籍，古文書が収蔵されています。有名な国宝、藤原定家の日記「明月記」をはじめ国宝、重要文化財が詰まっています。他の一つは「御新文庫」といい「御文庫」の写しと江戸時代以降のものを入れてあり、蔵には当主と次の当主しか入ることが出来ないのだそうです。土蔵は私が想像していたより、小ぶりでこじんまりした感じでしたが、中には神棚が設けられ神聖な場所となっています。土蔵には屋根と扉が付けられていましたが、火災が近くに起こると瓦葺の屋根や扉は取り外すことが出来、土蔵は壁のかたまりのようになって護られるということです。

台所には家族は決して立ち入ることはなかったそうですが、台所から土間に入った正面に祇園祭の長刀鉾で使われた「しゃぐま」という藁束が釣り下げられていて、魔除けとして飾られているのだそうです。お座敷の壁紙やお庭についていろいろ謂れなどを伺いました。前庭には左近の桜、右近の橘が植えられていました。普通の一般公開では見せてもらえないところまで見せていただき、有意義な一日でした。

F・M

“動物にも位があるんだって！”

５月末、塚脇の田んぼの中を散歩していたら、こんな光景に出くわしました。稲の苗床育成ネットの中にゴイサギが入りこんで、出られなくなっていました。入ったのは囲いの上にとまって、自分の重みでネットが破れ、中に落ち込んだと思われます。頭は流線型で胴はズングリムックリ、背中は黒っぽく足は赤茶色、頭の後ろに２・３本の流れるような羽根を持っています。芥川に白いコサギ、グレーのアオサギ、数種類のカモ類、黒い川鵜、季節によって都鳥はいますが、ゴイサギは殆ど見かけません。単独で行動することが多いらしい。このゴイサギはしきりとネットをつついていますが、しっかりと泥で押さえられていてどうにもなりません。まさに籠の鳥です。でも多分田んぼの持ち主に自由の身にしてもらったのでしょうか翌日見かけませんでしたので。

このゴイサギを漢字で書けば〝五位鷺〟と書きます。

醍醐天皇がある宴の折、池にいるこの鳥を従者に捕えるよう命じた処、従順に捕獲されたので、五位の位を与えたと云う。ちなみに歴史上、位が与えられた動物は、将軍徳川吉宗にベトナムから献上された〝象〟である。長崎から江戸に上る際、京都で天皇にお見せするのに位がなくては、困るとなり、従四位の位を与えられたと言う。江戸に着くと吉宗は大層喜んで、今の浜離宮あたりに象の小屋を建て、しばらく飼っていたが、倹約・節約政策をとっていた為、えさ代に困って、農家に譲った。なにしろ毎日米８升、饅頭１００個、ミカン１００個、藁１２０kg、笹の葉90kg、草１２０kg、芭蕉の葉２本とは・・・。象は見世物として扱われたが、間もなく死んだらしい。象も農家も悲しい結末であった。

和歌山貴志駅の〝たま駅長〟には幸せな猫人生を歩んでもらいたいもの。犬では〝忠犬八公〟だろうか。銅像が出来た程だから。とにかく時の権力者には有難き位なれど、簡単に与えてもらっては、庶民も動物も困る事があることを知ってほしいものだ。

S・U

“私の趣味のパッチワーク”

暇な時間に友達と一緒に家で趣味の一つとしてパッチワークをしています。ボケ防止とストレス解消におしゃべりしながら、手作りのお菓子を頂き、楽しみながら、作品は一針一針手縫いで、縫い合わせて出来上がりますが、年と共にだんだん根気がなくなつて来ています。完成すると楽しみが増します。

M・N